

吉持地蔵

江戸時代中期(18世紀)に、会見郡（伯耆国、かつての鳥取県の一部）の長者、吉持甚右衛門は経悟院の住職、豪堅と懇意になりました。その縁で彼は大山寺に、旅人の安全な旅を見守り、この地域の家畜の守り神とされている地蔵菩薩の彫像を寄進しました。大山寺には数多くの地蔵がありますが、こちらは自然石に刻まれた数少ない地蔵です。